

# 平成27年度 五泉市外国語活動部 活動報告

部長 渡部 武志

## 1 研究主題

新教材の活用法について研修を深める。

## 2 研究の概要

新教材「Hi, friends」の活用法や各校での取組について情報交換を行ったり、担任だけで行う外国語授業には、どのような手だてが有効であるか検討したりした。研究授業及び協議会を実施し、外国語活動の授業づくりについての研修を行った。

## 3 研究の実際

### (1) 情報交換会(6月)

各校の取組や現状をレポートにまとめて持ち寄り、情報交換を行った。外国語活動に対しての児童の興味関心は高いことが確かめられた。他に、「Hi, friends」に対応した教材が不足していることや「Hi, friends」の付属ソフトを活用できていないという現状が明らかになった。しかし、全体提示用のフラッシュカードと児童個人のミニカードを組み合わせてゲームを行うことで、効果的に英単語に触れさせることができた、自作の大型掛図を活用することで、たくさんの言語材料(月の名・曜日・十二支など)を一覧にして提示できた、という報告もあった。

### (2) 指導案検討会(9月) 授業者:村松小6年担任 坂上剛教諭

単元は、『Hi, friends!2』のLesson5「Let's go to Italy.」である。坂上教諭は、単元終末に「旅行代理店ゲーム」を設定し、児童が興味関心をもちながら学習を行うことができるようにした。また、いくつかのゲーム活動を単元に組み入れ、国の名前を思い出したり、英語表現に慣れたりすることができるようにもした。さらに、単元を通して映像資料を視聴させ、児童がそれぞれの国について具体的にイメージできるようにした。検討会では、担任のみで外国語活動を行う際の留意点や、難易度の高い表現(フレーズ)を児童にどのように慣れさせるかなどについて話し合われた。

### (3) 授業研究(10月) 授業者:坂上剛教諭

学習活動に合わせたカードやワークシートが準備され、児童の意欲や意識が途切れることなく授業が進んだ。国旗カードを掲示し、チャンツで国名をリズムに合わせて言う活動を行った。前時の学習を想起させたり、本時の活動への意欲付けを図ったりすることに有効に働いた。「トラベルゲーム」では、児童が、旅人役と空港職員役にわかれてゲームを行った。児童の役割を明確にしたり、カードを持たせて活動させたりすることにより、どの児童も抵抗なく活動に参加することができた。「インタビューゲーム」では、キーセンテンス「I want to ○○.」を使い、その国でしたいことや見たい物を答えさせた。多くの友達とゲームを行い、繰り返しキーセンテンスの言葉を発する児童の姿があった。



## 4 成果と課題

活動のねらいに合わせて、五感を使って外国語に触れさせたり、多彩なチャンツやゲームを行ったりすることが、児童の外国語を使ったコミュニケーションの能力を高めることにつながることを確かめられた。